



国際評価基準審議会 (IVSC) 年次総会報告※

※ 本稿においては、IVSC年次総会を中心に報告する。

日本公認会計士協会常務理事
いのうえ こういち
井上 浩一

I 概要

2018年10月22日(月)から24日(水)に、ドバイ(アラブ首長国連邦)において開催された国際評価基準審議会(International Valuation Standards Council: IVSC)年次総会について報告する。

II 出席者

筆者が出席(その他の日本からの参加者: Trusteeとして山田辰己氏、Business Valuation Standards Board Memberとして岩田宜子氏、Membership and Standards Recognition Board Memberとして日本不動産鑑定士協会連合会から水谷賀子氏)

III 議事概要

1 IVSCメンバーによるCEO会議(オープンミーティング): 2018年10月22日

IVSCのBoard of Trustees議長であるSir David Tweedieが議長となり進行された。Nick Talbot氏(Chief

Executive)が1年間の活動報告を行った。

新しく金融商品の評価基準を策定する委員会の委員の人選がようやく終わったとの説明があった。当初の予定では、2017年末ごろから活動を開始することになっていたが、約1年遅れたことになる。続いて、国際評価基準(IVS)に対するニーズの高まりについてなど幅広いテーマで自由なディスカッションが行われた(後日、金融商品の委員会議長はHSBCのGrain Francis氏が就任し、日本人の委員は有限責任あずさ監査法人の北野利幸氏が就任するとの報告があった。)

このセッションにおいて、筆者は「国際評価基準2017の著作権使用料は有料であるが、できれば無料で開放し、普及の促進を優先させてほしい」とコメントした。これについては、アドバイザリーボード等でも議論になっているとの説明があった。

2 ウェルカムスピーチと基調講演: 2018年10月22日

エミレーツ・リアルエステートのCEOからブロックチェーン利用による不動産取引記録や登記のシステムについての講演があった。ところで、アラブ首長国連邦のドバイは、石油からの依存を脱却して「金

融・観光・IT・物流」といった産業の多様化を進めてナンバーワン戦略を基にした巨大都市の構築をしてきた。世界一の高さの「ブルジュ・ハリファ」や世界一の広さの「ドバイモール」、そして、世界一の7つ星ホテル「ブルジュ・アル・アラブ」など、ほかにも数え切れないほどの「ナンバーワン」の施設がある。今回のブロックチェーンを主としたテクノロジーの導入もその戦略の1つである。

なお、2020年にドバイで万国博覧会が開催されるため、町の中心部で大規模な会場建設工事がなされていた。

3 IVSC Tangible Assets & Business Valuation Board 合同会議報告: 2018年10月23日

有形資産担当の理事会と事業評価担当の理事会がそれぞれ審議の進捗状況について報告し、会場からの質疑に答えた。

4 IVSCアドバイザリーフォーラムのオープン会議: 2018年10月24日

アドバイザリーフォーラムの構成員は各国のVPO (Valuation Professional Organization) であり、日本においては、日本不動産鑑定士協会連合会がこのVPOに該当する。今回の会議においては、「Business Valuation Quality Mark」の創設についての説明があった。

2018年1月にタスクフォースを立ち上げ、5月下旬にこの制度に関する意見募集を行った。8月末が回答期限であり、現在、回答内容を分析中である。回答は

15件(カナダ、中国、香港、日本、マレーシア、ルーマニア、エクアドル、シンガポール、英国、米国)であった。

コメントとしては、「ビジネスバリュエーションに限らずすべての評価について対象にすべき」、「実質的にもう1つのIVSCメンバーシップを創設することになる」、「認定についての争いが生じる」などが寄せられている。

これらの意見を受けて、「対象範囲をビジネスバリュエーションのみにするかどうか」や「名称を別名のAdoption Markにする可能性」についての検討、そして、プロフェッショナルの認定方法やその後の業務品質のモニタリング方法について議論が重ねられていくことになる。

5 年次総会: 2018年10月24日

下記について、報告・承認がなされた。

- International Valuation Standards Board及びIVSC Advisory Forumの各議長からの報告
- IVSCの財務報告
- IVSC会員の加入状況についての報告

6 次回の年次総会

2019年10月に行う予定である(場所は未定)。

IV 日本への影響

IVSCは、1981年にプライベートセクターの非営利組織として設立された団体である。その活動の中心は、国際評価基準の設定組織と評価を行う専門家の組

織の2つであり、その目的は下記のとおりである。

- ① 高品質の国際基準を開発し、その採用及び利用を促進すること
- ② IVSCのメンバーとなっている組織間の連携と協調を促進すること
- ③ その他の国際組織との連携及び協調を図ること
- ④ 評価専門職業に関する国際的な見解を示すこと

IFRSにおけるFair Valueの評価などについては、World bankや各国証券取引所、金融当局による関心も高く、私的団体であるIVSCの認知度も高くなってきている。現在のところ、これに伍する国際組織が存在していないことから、IVSCが示す基準が今後のデファクトスタンダードとなっていく可能性がある。

今回の総会では、前回に続き、Business Valuationにおける品質管理に関する方向性についての報告がなされた。今後、さらに進んで、何らかの資格制度が創設される可能性がある(なお、米国では金融市場監督当局の主導で既にCEIV (Certified in Entity and Intangible Valuations) 認定制度が2017年に導入されている。)

今後のIVSCにおけるIVS(特にBusiness Valuation)の改訂・運用において、日本公認会計士協会がその発言力を高め、国際基準策定の一翼を担うことが重要である。